宮城は現在(いま)も現実(いま)に立ち向かう。

2016.6.11

# NOW IS.

Vol. 2

毎月11日発行

ナウイズ

# in 女川

撮影協力：シーパルピア女川

# 一緒に遊び、夕飯を食べる。等身大の、付き合い方。

NOW IS. | Inter-View | ONAGAWA 女川町

## ありのままの自分で被災地に行く。千葉直樹さんと、思い出の街・女川へ

### スピード感ある復興といまだ続くまちづくり。

早朝。競りの開始を告げる魚市場のサイレンが、響き渡ります。梅雨を感じさせない暑い一日、少しずつ活気が戻り始めた港町を、元ベガルタ仙台のサッカー選手、千葉直樹さんと歩きました。

千葉さんが女川町を初めて訪れたのは、記憶がないほど小さい時。石巻市出身のお父さんに連れられて、頻繁に遊びに来ていました。「港から山に向かって、ズラーッと並ぶお店を見るのが、楽しかった。自分で車を運転するようになってからは、友達とよく海鮮丼を食べに来ました。ぼくの中では、海鮮丼と言ったら女川。いい思い出ばっかり、たくさんあります」。

そう話す千葉さんと、この日最初に訪れたのは、平成27年12月、女川駅前にオープンしたシーパルピア女川。「レンガみち」とよばれるプロムナードを中心に、27の店舗が集まるエリアです。ジャズが流れる商店街を歩きながら「来るたびに変わってるな」とつぶやきます。「震災のあと、もう何度も来ましたが、ここ1年は特にはやい」。

女川町は、若者を中心としたスピード感ある街づくりで話題を集めています。その象徴となっているのが、この商店街。町の人たちのほかに、視察者や観光客も多く訪れるようになりました。

一方で遅れがちになっているのが住宅の整備です。次に訪れた女川小学校では、仮設住宅から通う小学生に出会いました。「あ、千葉直樹だ」と言いながら、遠巻きに取材陣を見る二人組。仮設住宅から自転車で来た、という二人に、千葉さんは「何年生?」「サッカーのクラブ入ってんの?」と聞きながら、あっという間に距離を縮め、数分もしないうちに、一緒に遊びだしました。「子供が好きだっていうか、同じレベルなんだと思います」。そう話す千葉さんは震災直後からずっと、被災地に通い続けています。



NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

# 01

この人がこの町を盛り上げてます！

## チームを支えてくれた皆さまに結果を出すことで恩返ししたい。

### サッカーを通して女川をもっと笑顔に。

「サッカーを続けられるのは、会社の協力、サポーターの皆さまの応援のおかげ。みんなに支えられて、入団5年目を迎えました」。青柳健汰さんは、石巻市渡波出身の22歳。社会人サッカーチーム「コバルトーレ女川」に所属し、平日は笹かまぼこなどを製造する女川の企業『高政』の社員として働いています。

青柳さんは、中学1年の時、コバルトーレ女川のジュニアチーム発足時に入団。震災は高校2年の時でした。自宅も高校も津波によって浸水被害を受け、落ち着かない日々が続くなか、高校卒業とともにコバルトーレ女川のトップチームに入団しました。

「入団を決めた理由は、大好きなサッカーと仕事を両立できるから。ジュニアチームの練習は石巻だけだったので、女川はぼくにとって、近いのにあまり知らない町だったんです」。女川に通うようになり、被害の大きさと復興のスピードを実感するうちに、気持ちに変化が出てきたという青柳さん。女川町のイベントや掃除、保育所でのサッカー教室なども経験し、「女川の復興に全力で取り組む方たちの力になりたいと思うようになりました」。

コバルトーレ女川は、平成18年4月に発足し、今年で10年目になります。震災後は活動を中止していましたが、町が一体となって活動再開をあと押し。1年後に活動再開にこぎ着けました。青柳さんが入団したのはちょうどその頃。『地域を活性化し、恩返しを』という感謝のスローガンとともに、青柳さんは選手経験を重ねています。

「ジュニアからトップチームへ進んだ選手は少なく、頑張っている姿を見るのがうれしいと言ってくださるサポーターの方もいます。もっと試合に出て、いいプレーをして、地域の方たちを笑顔にしたい」。そう、力強く話してくれました。

コバルトーレ女川
トップチーム所属
青柳（あおやぎ） 健汰（けんた） さん

今シーズンは9回、女川でホームゲームを開催。

地元の人々で
埋め尽くされたスタンド。

NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS ONAGAWA NOW IS

女川町復興推進課
土地区画整理係
福嶋（ふくしま） 明（あきら）さん（兵庫県西宮市）

土地区画の整理は、
復興を担う行政の
重要な仕事のひとつ

『女川五百哩通信』は
次号で 21 号目

## 手作り新聞で、女川の現状を地元兵庫に発信しています。

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

# 02

この人がこの町を盛り上げてます！

### 西宮市の経験を活かし目の前の課題に道筋を。

兵庫県西宮市では、今、1枚の新聞がひそかな話題になっています。A4カラー両面、「ほぼ月刊」の手作り新聞。それが、派遣職員、福嶋明さん発行の『女川五百哩通信』です。「西宮市まで約500マイル（約800㎞）離れていることから、命名しました。業務報告の一環で作り始めましたが、今ではほかの部署や地域の方々も読んでくださっています」。内容は、女川町の復興に関するニュースや東日本大震災関連の書籍紹介、宮城県の食材を使ったレシピ、実にさまざま。「うれしかったのは、記事を読んで、女川からサンマのすり身を取り寄せてくれた方がいたこと。前向きな話題を盛り込みながら、風化防止に一役買えたらと思っています」。

福嶋さんが派遣職員として女川町に赴任したのは、今回で2回目。はじめに訪れたのは、平成24年4月からの1年半でした。そのころの女川町は、がれきがまだ山積みにされていた状態。「どのようにまちづくりを進めていいのか、見当がつかなかった」と言います。そんな福嶋さんを支えたのが、派遣元のサポートと女川の温かい人々でした。「阪神・淡路大震災の経験を当時の担当者から聞けるのが西宮市の強み。女川町の皆さんと復興という目標で一丸となれたのも心強かったです」。そのうち、女川町のことをもっと関西の人たちに知ってほしいと思うようになったそう。「女川は何度でも訪れたくなる町。私が感じた魅力を、自分の言葉で紹介したいと思うようになったんです」。

福嶋さんの担当は、土地区画の整理事業。「私がいるうちにすべての業務を完了させることはできませんが、道筋をつけて引き継ぎたいと思います」。復興を助け、魅力を発信する。忙しい日々は続きます。



# Newspaper 女川町 Pick-Up

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。

## 大津波が町をのみこむ

「全部なくなった」
見えぬ恐怖 おびえる住民
胸まで水 死を覚悟
悪夢の夜 温かさ知る
追る波 町をのむ
押し流される住宅 船

ちょうど町議会定例会の取材をしていた記者が遭遇した、女川町の津波の様子が克明に記された平成23年3月13日の記事。「津波に巻き込まれた家屋が、車が、樹木が次々と役場庁舎にぶつかる。そのたびに鈍い震動ときしむ音が聞こえる。夢中でシャッターを押す。死ぬかもしれない。本気でそう思った」という生々しい文とともに、女川町役場の屋上から撮影された大津波の写真が掲載されました。（写真下）

女川の最大津波高は14・8ｍで県内最大。320haの浸水域に暮らしていた町民の比率は推定87・7％にのぼり、県内最大数値となっています。巨大化した津波にのみこまれた町では、89・2％の住宅が被害を受け、避難生活者も最大で5700人を超えました。

## 女川再生への道のり

女川再生
確かな息吹
まちびらき1年

© 河北新報社

平成28年3月21日の記事には、震災で壊滅的な被害を受けた女川町中心部の〝まちびらき〟の1年が掲載されました。更地が広がり真新しい女川駅だけがぽつんと建っていた平成27年3月から、海へと向かうプロムナード（レンガみち）が開通した9月、そしてテナント型商業施設「シーパルピア女川」が開業し大勢の人でにぎわう現在の様子から、復興の歩みが感じられます。

今年中には、プロムナード沿いに、海産物などを販売する（仮称）物産センターの開業を予定。今なお仮設住宅で暮らす住民も多くいますが、がれき撤去やかさ上げ工事が続いていた町の中心部に買い物や街歩きを楽しむ人々が戻ってきたことで、女川再生に向けて確かな一歩を踏み出しています。

※記事の詳細は今後公開予定のポータルサイトで掲載します。

# ARで見る定点観測

look at Miyagi

## 現在の女川町

撮影地点
女川町地域医療センター

宮城県の太平洋沿岸、日本有数の漁港がある女川町。この港町に大津波が襲い、役場、駅がある町中心部も含め、町内の大半が壊滅的な被害を受けました。震災から5年。新しい駅舎の完成を皮切りに、造成工事が完了した高台に住宅が立ち始めるなど、新しい街が形成されはじめました。

被災直後の女川町

無料アプリ「**ココアル2**」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在（平成28年5月）の女川町の様子がご覧いただけます。ぜひ、被災地の移り変わりをごらんください。

震災前の女川町

（写真提供：女川町）

COCOAR2の
ダウンロードは
「Google play」
「App Store」から

COCOAR2に対応していない
端末もございます。

**無料アプリココアル2をダウンロードしてごらんください。**

# NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

## NEWS 01 県内の病院の魅力発信。看護学生・未就業看護師等病院就職ガイダンス開催。

平成28年度看護学生・未就業看護師等病院就職ガイダンスを開催します。県内における看護職員不足は深刻な問題で、東日本大震災の影響により、沿岸部をはじめとした県内の多くの病院において、看護師等を確保することが一層困難な状況となっています。当日は、病院ごとのブースで参加者の皆さんからの質問にお答えします。参加費は無料、事前申込も不要です。県内の病院で働く方々の生の声を聞いて、それぞれの病院の魅力に触れてみてはいかがでしょう。

**日　時**
平成28年8月6日（土）
11時から15時まで

**会　場**
ネ！ットU仙台市情報・産業プラザ
（アエル5階）多目的ホール

**対　象**
県内外の看護系大学、看護師等養成所に在学する学生及び未就業看護師等

問.県医療整備課
☎.022-211-2615
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/iryou/

## NEWS 02 今月は東北復興月間。宮城県復興フォーラム開催。

6月20日(月)に、東北復興月間の一環として「宮城県復興フォーラム」を開催します。村井嘉浩宮城県知事とさとう宗幸氏の特別対談や、パネルディスカッションを行い、これからの課題や復興と防災について改めて考えていきます。参加者を6月15日(水)まで募集しています。復興の推進、震災の風化防止のために、これからも情報発信を行っていきます。

問.県震災復興推進課
☎.022-211-2443
申込方法：1.氏名 2.人数 3.連絡先を明記し、
下記までFAXまたはE-mailでお申し込みください。
FAX 022-206-4368　E-mail mff@kahoku-ad.com

## NEWS 03 音楽の力で女川を元気に！「我歴 stock in 女川～共鳴編～」

今年で6年目を迎える音楽イベント「我歴stock in 女川」を7月10日(日)に開催します。

同イベントは震災後、音楽の力で女川を元気にしたいと企画。今年は昨年末にオープンしたシーパルピア女川を会場に、サブテーマは「共鳴編」。その場所にしか存在しない音楽を心と体で共鳴し、がんばってほしいという想いでイベントを行います。

問.女川福幸丸
（我歴stock in 女川 実行委員会）
☎.070-5321-2500
http://www.onagawa-fkm.com/

## NEWS 04 女川駅のプロムナードをショーのランウェイに

6月26日(日)に町民有志らでつくる実行委員会が、ONAGAWA FASHION SHOW2016を開催します。

元ミス・ユニバース日本代表で仙台市出身の原綾子さんが総合プロデュースを務め、女川駅から海に向かって伸びるプロムナードに特別ランウェイを設置。原さんが参加する「プロモデル部門」のほか、「キッズ部門」「ティーンズ部門」は女川町と石巻市、東松島市の一般女性が出演します。

問.ONAGAWA FASHION SHOW実行委員会
☎.090-1932-2713
(bar sugar shack内)
http://onagawapsr.wix.com/onagawafashionshow

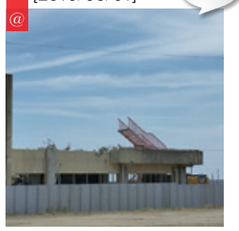
## NOW IS./ MIYAGI @SNS

宮城県震災復興本部のSNS「いまを発信！復興みやぎ」(Facebook・Twitter・Instagram)がスタートしました。NOW IS.プロジェクトの進行や取材裏話など、内容を充実していきます。各SNSで「いまを発信！復興みやぎ」と検索し、ぜひフォローしてください。また皆様が撮影した被災地の「いま」の画像の投稿もお待ちしています。ご投稿いただいた写真は、年度末に発行予定の総集編や、パネル展などでご紹介させていただきます。

各SNSの検索窓で　いまを発信！復興みやぎ　検索

いちご農園（山元町）
[2016/05/29]

閖上小学校（名取市）
[2016/06/01]





TOPICS 3

# 明日への取り組み：むすび塾

河北新報 防災・減災 巡回ワークショップ

### ぼうさい探検隊のノウハウを取り入れ、防災マップを作成。

今回の「むすび塾」は、平成28年5月22日、仙台市太白区の八木山地区で開催。日本損害保険協会の安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」を活用し、小学生から大学生までの14人が、防災マップづくりに取り組みました。

八木山小学校や八木山中学校の児童生徒、仙台城南高校や東北工業大学の学生たちが3班に分かれて八木山市民センターを出発。地図を見ながら災害時に危険だと思う場所や、役に立ちそうなところを探しながら、安否確認の訓練として高齢者宅を訪問する行程です。

「塀にヒビがあり崩れそう」「側溝は危ない」など、歩きながら確認していく子どもたち。八木山地区は坂が多いため、急な階段の路地を見ると「高齢者は大変かもしれない」と心配する声も。普段は見落としがちな「消火栓」や「AED（自動体外式除細動器）」をチェックし、八木山本町1丁目公園では防災倉庫の備蓄品も確認しました。

訪問した高齢者の一人は、ひとり暮らし。震災時は充分に備蓄していたものの、「電気やガスがなかなか復旧しないのは困りました。水は、庭の雪をお風呂に貯めて使ったりもしたのよ」と語り、子どもたちはメモをとりながら聞きました。

約1時間の探検後は、センターに戻り、班ごとに危険箇所などを大きい地図に印をつけて発表を行い、一人ひとり意見を述べました。参加した中学生の生徒は「自分の家の周りでも危ないところを探したいと思います」と気を引き締めていました。

暮らしの足元を見つめることは、災害への備えになるだけでなく、災害から立ち上がる力にもなります。一人ひとりが「わがこと」として、地域の防災を考えることが大切です。

### むすび塾とは

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社が開催する巡回ワークショップ。「いのちと地域を守る」キャンペーンの一環として、平成24年5月から月1回、町内会や学校、企業などで開催し、平成28年5月で通算55回目となりました。

目的は、対談を通して震災時の教訓や減災・防災への備えを、あらためて考え直すこと。

ワークショップの様子は、河北新報紙面でも公開し、防災や復興への行動を後押ししています。

今までの「むすび塾」の記事は河北新報社のwebサイトでご覧いただけます。
www.kahoku.co.jp/special/bousai/

## STAFF'S VOiCE 取材こぼれ話

編集後記

今回は、元ベガルタ仙台の千葉直樹さんと女川町を歩きました。平日に訪れたにも関わらず、駅前のプロムナードはさすがの賑わいでした。今、女川町では「ランチ難民」が問題？になっているとのこと。ランチを出しているお店がまだ少ないため、観光客が多い日には、どこも大行列になってしまうそうです。うれしい悲鳴でしょうか。取材の日に食べた海鮮丼、リピートしたいおいしさでした。

そうは言っても、商店街から一歩外にでると、町の大部分がかさ上げ工事中。被災地の今の姿を、まだまだ伝えていきたいと思います。

工事中の港にて、千葉直樹さんと

**宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む）10,551人 ｜ 行方不明者数 1,236人**
平成28年4月30日現在 宮城県危機対策課調べ

# NOW IS. 防災

もしものときにあなたを守る、
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

## Theme 2 揺れ

**グラッと揺れたその瞬間、どうすればケガをしないですむのか。
自分の身を守れるかどうかは、とっさの判断にかかっています。
今回は、揺れへの対処法を場所別にご紹介。
いざという時すぐ行動できるよう、イメージトレーニングしておきましょう。**

### 浴室

#### 衣類とバスタオルは浴室か出口のすぐそばに

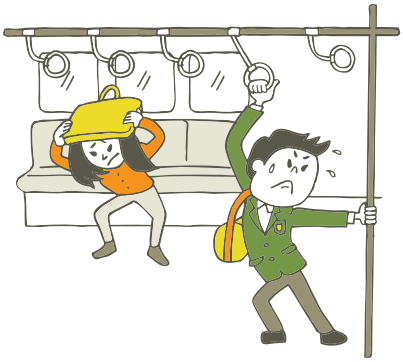
浴室は柱が多かったり、一体構造だったりするので、倒壊の心配はさほどありませんが、まずは扉をあけて退路を確保し、すぐに服を着ましょう！その後避難が必要になったとき、裸では身動きが取れません。

### トイレ

#### 高所に物を置かないよう普段から心がけて

狭い空間なので、頭に物が落ちてこないよう、日ごろから気を付けるのが大切です。座っているときなら、壁や手すりで体を支えてください。閉じ込められることが怖いので、扉を開けられたらベターです。

### 地下鉄



#### 何かにつかまって体を固定停電でもパニックにならずに

地下は揺れが小さいですが、頭を守り、足を踏ん張ったり、うずくまったり、つり革につかまったりして、体ごと振り回されないよう注意。停電した時のことも考え、小さな明かりを普段から携帯しましょう。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所 保田真理 防災士

## 防災コラム Vol.2

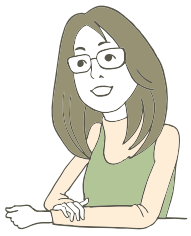
★いつも被災する可能性を頭に！

★外出先でも、場所の状況を把握！

★非常時役立つものを携帯！

災害は、どこで遭遇するかわかりません。いつ、どこに行っても、自分のいる地理を把握し、どんな災害の危険性があるのか気を配りましょう。火災の危険性がある？土砂災害の危険性がある？津波の危険性がある？など、ある程度のことは地理や街並みで想像できます。また、いざという時に役に立つものを、持ち歩くクセをつけるのも大切ですよ。


保田真理 防災士
東北大学災害科学国際研究所

災害リスク研究部門津波工学研究分野に所属。防災士として、防災・減災のノウハウを広く伝える活動をしている。NPO防災士会みやぎ会員。


NOW IS. vol.2 ナウイズ
昨年度までの「みやぎ復興プレス」をリニューアルしました。

発行：平成28年6月11日 宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2443 Fax:022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government